

5月8日のウクライナ情報

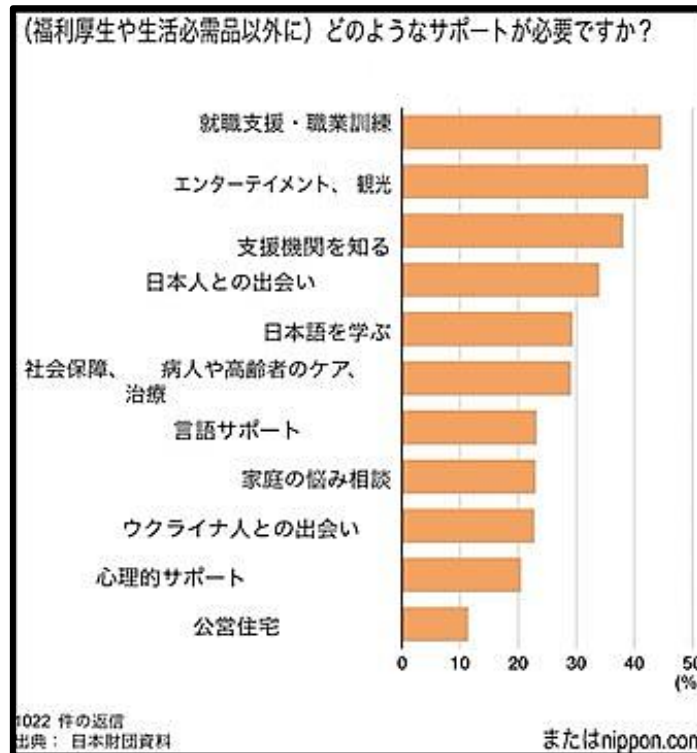
安齋育郎

① ウクライナ人のほぼ 87%はまだドイツで職を見つけていない(BILD、2024年5月6日)

※投稿者コメント:現在、ドイツにはウクライナからの難民 110 万人が登録されており、そのうち 71 万 6,000 人が労働年齢に達している。5 人に 1 人が働いています。

日本にいるウクライナ難民は、現在必要なサポートでは、ほぼ半数がエンターテイメント観光のサポート希望だという。

日本国民が物価の値上げなどを心配してるのに、遊ぶこと考えてる難民達。



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1787315589905895643?s=09>

② 亀戦車の新バージョン。車両の先頭に、地雷を先に踏ませるためのローラーが設置された(2024年5月6日)

<https://twitter.com/i/status/1787317434078401013>



<https://twitter.com/GyotokuShogi/status/1787317434078401013?s=09>

③西側諸国はUA和平サミットで「交渉のパロディ」を演じる - ラブロフ外相(2024年5月6日)

ラブロフ外相は、今年6月にCHで開催される「和平サミット」は完全にジョークであり、少なくともRUは招待すらされていないと述べた。

外相は、西側諸国がいかに自分達の影響力を、益々無関心になる南半球に押し付けようとしているかを説明した。

<https://twitter.com/i/status/1787210453589880966>



<https://twitter.com/AmbraBeni/status/1787210453589880966?s=09>

④三色旗を掲げたロシア軍パイロットに会ったマケエフカの少女は、プーチンの指示で子犬を与えられた(2024年5月6日)

数年前から、9歳のマーシャは、ウイングド・エンジェルズのクルーが戦闘機を支援するために空を飛ぶと家を飛び出していた。この少女の物語はウェブ上で人気を博している。

マーシャはすでに飛行場を訪れパイロットたちに会っており今日は大統領府のセルゲイ・キリエンコ第一副長官とDNRのデニス・プシリン代表の訪問を受けた。

「マーシャ任務だ。プーチン大統領は、あなたに子犬を与えるよう指示しました。我が軍を扱うのと同じ責任を持って犬を育ててほしい」とプシリンは言った。

少女はこの大切な贈り物を喜んで受け取りペットにレクシーと名付けると言った。

<https://twitter.com/i/status/1787278492050326014>



<https://twitter.com/Reloaded7701/status/1787278492050326014>

⑤【最後のビデオレター】(2024年5月6日)

(ウクライナ兵士)

兄弟...

思うんだが、戦争ってやつはクソみたいに最悪だ。

第一、お前や俺が決めたわけじゃない。

それで...ここ数日が俺の最後の日々になるだろう。

- ▼ 始めたのも終わらないよう手を尽くしているのも EU だって
- ▼ さっきボレルEU外相が言ってた

<https://twitter.com/i/status/1787179888929309178>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1787179888929309178?s=09

⑥【ロシア出張報告】インタビュー！ロシア現地でしか聞けない情報<前編>

ーロシア在住日本人 YouTuber ニキータさん&X アカウント「ロシア在住です」さんに現地取材！ ※安齋注：ザルージニ司令官解任前の映像ですが、参考にして下さい。



<https://twitter.com/i/status/1732038985223213561>

来年のウクライナ大統領選挙は行われるか？

国民的人気のウクライナ軍最高司令官がゼレンスキーに勝つ可能性がある。そこで、ゼレンスキーは選挙中止を工作。しかし、既にゼレンスキーを見捨てた西側は大統領選を行わせようと圧力。

◆ ウクライナ西部はポーランドに併合されるか？

ゼレンスキーはポーランドの大統領に西部を割譲すると密約していた。だから、ポーランドはどの国よりも熱心にウクライナ支援をしていた。ところが、ゼレンスキーはその約束を反故に。ポーランドの大統領は激怒。

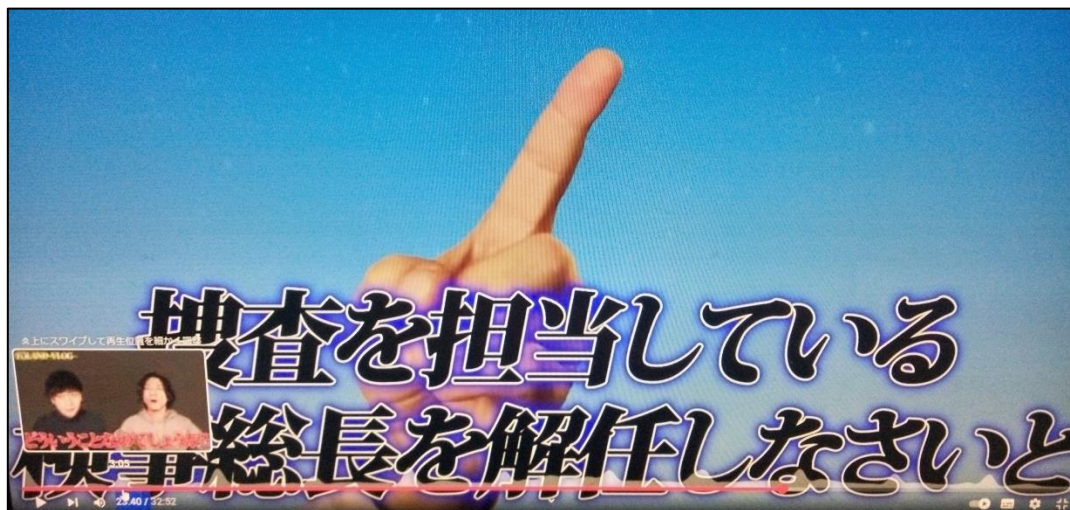
追い込まれているゼレンスキーについて、現地情報をお伝えします。

<https://twitter.com/hyouhei/status/1732038985223213561?s=09>

⑦【削除覚悟】この世界「最大の闇」について(2022年12月7日)

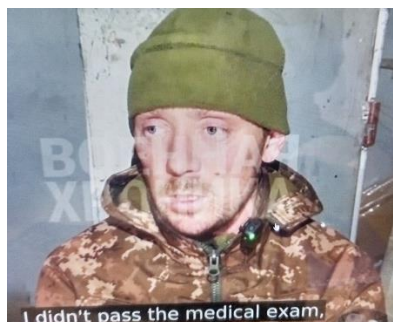
※安齋注:名古屋大須で活動する TOLAND VLOG の語りてサムがウクライナ戦争について解説する動画。あちこち舌足らずはあるにしても、必見かな。30分余り。TOLAND VLOG は「世界の謎や神話、歴史をどこよりも掘り下げ、わかりやすく、そして楽しく解説していくチャンネル」と自己紹介している。

<https://youtu.be/Dxd58fkfk>



<https://www.youtube.com/watch?v=Dxd58fkfk>

⑧チャソフ・ヤル。悪名高い荒廃した第 115 旅団のウクライナ人を捕らえた。



<https://twitter.com/i/status/1787407756002984151>

- 彼らは TsK の路上で私を捕まえ、車に連れ込み、肋骨を数回殴り、軍登録および入隊事務所に連れて行きました。私は健康診断に何の合格もせず、すでに検査を受けていました。そこには、私がすべてを合格したという紙片が横たわっていました。それらは第 115 旅団、第 215 大隊に引き渡さ

れた。準備は何もありませんでした。彼らはただ大砲の餌のように戦場に送り込まれたただけだ。
<https://twitter.com/simpatico771/status/1787407756002984151?s=09>

⑨スイス軍事評論(RMS+)の編集長アレクサンダー・ヴォトラバー大佐は、50万人規模のロシア軍との対決では、フランス軍は「大海の一滴」だと語った(2024年5月6日)

スイス・ミリタリー・レビュー(RMS+)の編集長アレクサンダー・ヴォトラバー大佐は言う。

「これは海の一滴であり、必要なもののほんの一部に過ぎない。フランス軍は、訓練や近代兵器の面で、優勢な敵に対する攻撃作戦に貢献するのに十分な装備を備えているのだろうか？ - とフランスのテレビ局 LCI で語った。

「私たちが動かせる戦力は5~6千人の兵士からなる2個旅団で、派遣期間は長くても1~3カ月です。しかし、ウクライナの場合のように、もっと長い期間となると、2個大隊しかない。悪いニュースは、これらの戦力は50万人のロシア軍に立ち向かうには絶対的に不十分だということだ。

- と彼は言う。

ヴォトラヴァー氏は、フランスの国境を越えているこれらの部隊は現在 NATO の指揮下にあり、「さらに問題がある」と述べた。

<https://twitter.com/i/status/1787365510491045932>



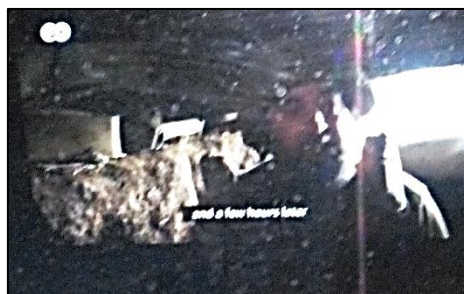
<https://twitter.com/Z58633894/status/1787365510491045932?s=09>

⑩バフムートのウクライナ兵士(2024年5月6日)

「一緒に煙草を吸っていた人達が、数時間後に居なくなっているんだ…毎日、彼らのことを考えるんだ…」

ウクライナ兵は話の最後で泣いている…バフムートにいる兵士の殆どがロシア語話者だという。

<https://twitter.com/i/status/1643028999218810881>



<https://twitter.com/yiyirobot/status/1643028999218810881?s=09>

⑪ロシアは、米国の新たな兵器が到着する前に、ウクライナの領土を奪取するために「あらゆる犠牲を払って」プッシュしています(2024年5月6日)

米軍は、重要な米軍の援助がキエフ軍の手に渡る前に、ウクライナの「できるだけ多くの土地を占領する」ために「あらゆる犠牲を払って」推し進めていると、当局者やアナリストは警告している。

長距離ミサイルから装甲車、重要な大砲まで、あらゆるものを含む 610 億ドル(480 億ポンド)の米国パッケージの最初のトランシェが今週到着し始めましたが、援助のかなりの部分が到着するまでには数週間から数か月かかる可能性があります。

一方、ロシア軍は前線で砲兵と兵力の優位性を最大限に活用し、東部ドネツク州のウクライナ占領地域の包囲を急いでいる。

「クレムリンは急いでいる」と、米国を拠点とするシンクタンク、ジェームズタウン財団でロシア軍を専門とするパベル・ルージンと言う。「彼らはウクライナに停戦交渉を強いるために、どんな犠牲を払っても戦闘態勢を改善しようとしている」



<https://static.independent.co.uk/2024/05/03/16/SEI196617488.jpg>

⑫ウクライナは今年、負けるかもしれないと英軍元司令官 それほどのように - BBC ニュース(2024年5月5日)



フランク・ガードナー BBC 安全保障担当編集委員

英統合軍の元司令官、サー・リチャード・バロンズは、ウクライナが 2024 年にロシアに対して敗北するかもしれないと BBC に話した。

バロンズ将軍は、ウクライナが今年負ける「深刻なリスク」があると BBC に述べた。「自分たちは勝てないと、ウクライナが思うようになるかもしれないからだ」と、将軍は理由を説明した。

「その状態にウクライナが達した時点で、守り切れないものを守るだけのために戦い、死ぬことを、大勢が望むだろうか」

しかし、ウクライナ軍の持つ砲弾や人員や防空能力は、危機的な状態まで枯渇(こかつ)しつつある。大いに期待された昨年の反転攻勢は、ロシア軍を占領地域から追い出すには至らず、ロシア政府は今や今年夏の攻勢に向けて準備を本格化させている。

では、ロシアの夏の攻勢はどのようなものになるのか。その戦略上の目的は、何になるのか。

「想定されるロシア軍の攻勢がどのようなものになるのか、それはかなりはっきりしている」と、バロンズ将軍は言う。

「前線のロシア軍は銃弾、砲弾、人員の数で5対1の比率で相手に勝っている。それに加えて、新しめの兵器の導入で、優勢が強化されている。これを利用してロシア軍は徹底的に(ウクライナ軍を)たたいている」

「新しめの兵器」には、FAB 滑空爆弾も含まれる。旧ソヴィエト連邦時代の無誘導爆弾を改良したもので、安定翼やGPS誘導装置を備え、爆薬1500キロを積み、ウクライナ軍の防衛態勢を大混乱に陥れている。

「今年の夏、ロシア側がある時点で、大規模な攻勢を仕掛けると予想される。わずかに相手をたたいて前進するだけでなく、ウクライナ軍の前線を本格的に突破しようとするかもしれない」と、バロンズ将軍は話す。

「もしそうなれば、ロシア軍が突破侵入し、ウクライナ軍がそれを阻止できない位置までウクライナ領内に入り込み、それを拠点にして利用しようとするかもしれない」

しかしそれはどこなのか。

ロシア軍は昨年、ウクライナがどこから攻めてくるか、正確に予想していた。南部ザポリヅジャからアゾフ海を目指す方向だ。これを正確に予想し、適切に備え、そしてウクライナの前進阻止を成功させた。

今度はロシアが攻勢に転じる番だ。ロシアは軍勢を集約しているが、次の攻撃局面がどこになるのかウクライナ政府は推測するしかない状態だ。



イギリス王立防衛安全保障研究所(RUSI)の上級研究員、ジャック・ワトリング博士は、「どこに部隊を集中させるか、ロシアには選択の余地がある。これはウクライナが抱える難題のひとつだ」と説明する。

「前線はとても長い。そしてウクライナはそのすべてを防衛しなくてはならない」
もちろんそんなことは無理だ。

「ウクライナ軍は地歩を失うことになる」と、ワトリング博士は言う。「問題は、どれだけ失うのか。そしてどの人口密集地がそれによって影響を受けるのか、だ」。

ロシア軍の参謀本部が、どの方向に勢力を集めるのかまだ決めていない可能性もかなりある。しかし、大まかに言って、3つの場所が可能性として考えられる。

ハルキウ

「ハルキウはもちろん、かなり危険な状態にある」と、ワトリング博士は言う。

ロシアとの国境に危ういほど近いウクライナ第二の都市は、ロシア政府にとって魅力的な目標だ。

現在は連日、ロシアのミサイルに砲撃されている。ドローン、巡航ミサイル、弾道ミサイルという殺傷力の高い組み合わせを阻止できるほどの防空力が、今のウクライナにはない。



ロシアはドローンやミサイル、砲弾でハルキウを連日攻撃している

「今年の攻勢は、ドンバス地方から飛び出すことを第一目標に思う」と、バロンズ将軍は言う。「そして、ロシア国境から約 29 キロにあるハルキウを手に入れられれば、大きな成果となる。それだけに、ロシア軍はハルキウに注目しているだろう」。

もしもハルキウを失ったとして、ウクライナはまとまった単一国家として機能し続けられるだろうか。それは可能だと、多くの専門家は言う。しかしそれでも、国民の士気と国の経済にとって、悲惨な打撃になるはずだ。

ドンバス

「ドンバス」と総称されるウクライナの東部地域は、2014 年以來ずっとロシアと戦っている。ロシア政府に後押しされた独立勢力が当時、「人民共和国」を自称して以来のことだ。

2022 年にはロシアが、この「ドンバス」を構成するドネツク州とルハンスク州の両方を違法に併合した。この 1 年半というもの地上戦のほとんどは、この地域で行われてきた。

ウクライナはこのドンバス地方で、まずはバフムート、続いてアウディイウカという二つの町を失わないようにするため、膨大な人員や資源を防衛戦につき込んだ。

その作戦には異論も多く、結果的に両方の町だけでなく、ウクライナ軍有数の優れた兵士を多く失

った。

そうした批判に対してウクライナ政府は、自軍の徹底抗戦によってロシア軍は不相応なほど多くの兵士を失ったと反論している。

それも事実だ。この地域での戦場は「肉ひき機」とまで呼ばれている。

しかし、ロシア側には戦場に送り込める兵士がまだまだ大勢いる。ウクライナ側にはいない。

アメリカ欧州軍のクリストファー・カヴォリ司令官は10日、米下院軍事委員会で証言し、アメリカがウクライナへの兵器・砲弾供給をかなり急がなければ、ウクライナ軍は戦場で10対1の劣勢に立たされると警告した。

物量は重要だ。ロシア軍は戦術も指揮系統も装備も、ウクライナ軍のそれに劣るかもしれない。しかし、(砲弾の数を含めて)数字の上であまりに優勢なので、たとえ今年ほかに何もなかったとしても、ウクライナの村をひとつまたひとつと制圧し、ウクライナ軍を西へ西へと後退させることは最低限のデフォルトとして可能だ。

ザポリヅジャ

ここもまたロシア政府にとって、魅力的な手柄だ。

ウクライナ南部ザポリヅジャは、平時の人口は70万人以上。そして、ロシアの前線に危険なほど近い。

ザポリヅジャはロシアにとって厄介なとげでもある。違法に併合したザポリヅジャ州と同じ名前の州都だが、それでもいまだにウクライナ領で、住民は自由に暮らしているからだ。

しかし、ロシア軍自身が昨年、ウクライナ軍の攻勢ルートを正確に予測してザポリヅジャ南部に強大な防衛線を築き上げたことが、今ではロシア軍の前進を難しくしている。

三重に設置された防衛線からなる、いわゆる「スロヴィキン・ライン」の周辺には世界最大の地雷原が広がる。今や世界で最も徹底的に地雷が敷設された場所だ。ロシアはこれを部分的に解体することもできるが、そうした準備作業はおそらく探知される。



ウクライナは今や、世界で最も多くの地雷が敷設された場所のひとつだ

ロシアの今年の戦略目標は、領土ですらないかもしれない。ただウクライナの戦意を喪失させ、ウクライナ敗戦はもはや決まったも同然だと西側諸国を説得さえすれば、ロシアにはそれで充分なのかもしれない。

「もはや望みはないという感覚を生み出すこと」がロシアの目標だろうと、ワトリング博士は考えて

いる。

「今年のロシアの攻勢で、双方がどうなるとしても、この紛争を決定的に終結させるようなものにはならない」と博士は言う。

バロンズ将軍も同意見だ。確かにウクライナ軍はいま厳しい状況にあるが、ロシア軍がその優勢をてこに決定的な前進を果たせるかどうかは疑わしいと、将軍は見ている。

「ロシアは一定の戦果を得るものの、突破はできないというのが、おそらく最もあり得る結果だと思う」と将軍は話す。

「(ドニプロ)川まで一気に前進できるだけの、規模と能力の部隊はロシア側にはない。(中略)それでも戦況はロシア有利に転じることになる」

確かなことがひとつある。ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、ウクライナ侵攻をやめるつもりなどまったくない。

ポーカーの勝負で、手持ちのチップをすべてかけているプレイヤーのようだ。ウクライナが防衛に必要な装備を、西側は提供しない——それがプーチン氏にとって頼みの綱なのだ。

北大西洋条約機構(NATO)でどれだけ首脳会議が開かれても、どれだけあちこちで会合が開かれ、感動的な演説が相次いでも、プーチン氏の計算通りになる可能性がある。

(英語記事 Ukraine could face defeat in 2024. Here's how that might look)

<https://www.bbc.com/japanese/articles/c51nml7rvvko?s=09>